



おきなわ



作品名：「壺屋の匠」、撮影：福盛庸夫さん

目次

② 沖縄県社協 平成21年度 実績報告

⑤ 沖縄県社協 平成21年度 決算報告

⑥ 生活福祉資金について

⑦ シリーズ活動最前線

「実りの里保育園

子育て支援センターあしびな～」

⑧ 沖縄県共募 平成21年度 実績報告

⑨ 沖縄県共募 平成21年度 決算報告

⑩ ほっとニュースTOPICS

・市町村社連総会、こいのぼり掲揚式

・福岡県ふれあいとチャレンジの翼

・タクティールケアの実践 他

⑭ 福祉・介護の職場体験、ソウェルクラブ情報

⑮ 求職登録のご案内、介護講座のご案内

⑯ インフォメーション、

寄付・寄贈者芳名、表紙の写真

「福祉情報おきなわ」の作成経費の一部として共同募金配分金を使用させていただいております。

平成21年度沖縄県社会福祉協議会 事業実績報告

去る5月25日の第1回理事会・評議員会にて、平成21年度沖縄県社会福祉協議会事業実績報告及び決算報告が審議され、承認されました。本誌では、重点事業を中心に主な実績概要を報告いたします。仔細につきましては、本会総務企画部または本会ホームページにて閲覧することが出来ます。

1 市町村社協活動との連携・民児協への支援

○市町村社協活動等の支援

平成21年度は、特に小地域福祉活動の推進を図ることを目的に、小地域福祉活動に関するアンケート調査やコミュニティ

所の市町村社協を巡回訪問し、離島及び小規模市町村社協が抱える課題や問題について助言や情報提供に取り組んだ。

に計43回派遣し、特に昨年10月の生活福祉資金貸付制度見直しの説明会の開催にも力を注いだ。

○民児協への支援

災害時における民生委員・児童委員と市町村社協や行政等との連携・協働は大きな課題となっており、平成21年度も県民児協と共催し、「連携・協働」をテーマにした研修会を開催した。



▲福祉有償運送運転者講習会の様子

また、市町村（単位）民児協の活動強化を図るため、当該民児協主催の研修会へ担当職員等を講師



▲国際通りをパレードして民生委員・児童委員活動をアピールした

2 県民参加による福祉社会の形成

○ボランティア活動の充実強化

県ボランティア・市民活動支援センターでは、大規模災害発生時において、被災地住民の支援には県社協と市町村社協との連携が非常に重要との認識から、その体制作りには焦点を当てた研修に取り組んだ。また、平成23年度にボランティア活動推進校助成金事業が終了する事を受け、これまでの実践活動の報告会を

開催し、今後の活動活性化の方策について継続協議をすることとした。

○福祉文化の形成

地域の福祉力に着目し、住民同士の支え合い活動の推進を目的として、昨年度は、子育て当事者の視点を活かし、地域の子育て支援を行っている方々から学ぶ「地域の福祉力を高めるセミナー」として、主体性を活かす子育て支援くこどもと親となかまと地域をテーマに開催し、報告書を作成した。



▲災害ボランティアセンターマニュアル研修ワークショップ風景



3 社会福祉施設・団体への支援

○種別協議会との連携と支援

各種別協議会活動の一層の推進と緊密な連携等を図る目的に、

昨年度、各種別協議会の代表者（会長）による会議を開催し、

福祉人材の育成や確保、協働事業（研修・地域貢献等）、政策提

言活動のあり方等について、協議・情報交換を行った。また、

その一環として、「新型インフルエンザ対策」や「福祉・介護人材の処遇改善」等、共通課題

をテーマに取り上げた合同研修会を開催し、理解促進を図るこ

とにより、利用者への処遇改善・向上を図った。



▲インフルエンザ対策研修の様子

○福祉事業従事者の研修

福祉事業従事者の資質向上を図るため、民生委員・児童委員

研修を開催したほか、社会福祉施設等の新任、初任職員研修、

現任研修、専門研修、職場研修担当職員研修等を実施した。

○福祉人材の養成確保

福祉・介護分野での人材確保難が深刻化する中で、求職者の

掘り起こしや求人開拓を強化するとともに、質の高い福祉人材の確保・定着を図るため、関係

4 社会福祉従事者の資質の向上と研修事業の推進



▲職場説明・面接会の様子

事業所、福祉専門職能団体及び養成校等との連携を図り、介護職のイメージアップや雇用に関する専門相談、出前研修等の取組を実施した。

○福利厚生センター事業の推進

福祉の職場に優秀な人材が定着するよう、職員処遇の向上と福利厚生充実のため福利厚生センター（ソウエルクラブ）への加入等を促進した。

5 県民への福祉サービス事業の推進

○生活福祉資金貸付事業の効果的な運営

生活福祉資金の制度見直しが行われ、資金の統合・再編、連

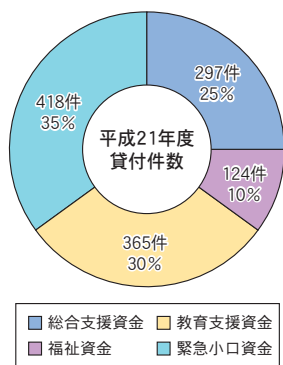
帯保証人の要件緩和、貸付金利子の引き下げを行い、新たに

「総合支援資金」が追加され、生活福祉資金制度と雇用施策の連

携が図られた。また、臨時特例つなぎ資金貸付制度も創設された。

貸付部門では経済状況等によ

り失業者が多発し総合支援資金をはじめ各資金の貸付件数が前年を大きく上回る1204件の貸付となった。



○介護技術等の普及による介護意識の促進

介護に関心のある一般県民や介護職員を対象に、介護技術の向上を図ることを目的に各種講座を実施した。また、一般的

な家庭の広さを再現した畳間にベッドやポータブルトイレなど

を設置した「お試しルーム」を設け、福祉用具や介護に関する

相談に応じた。

11月11日の介護の日には、沖縄県介護福祉士養成校連絡会等の関係機関・団体と連携して、介護について県民へ広くアピールするとともに、認知症高齢者ケア特別記念講演を開催するなど、認知症への理解促進に努めた。



▲介護実習講座の様子

5 県民への福祉サービス事業の推進

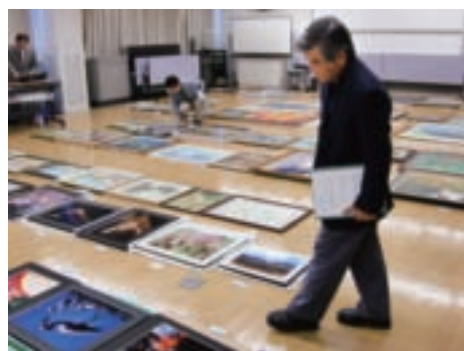
○明るい長寿社会づくりの推進

高齢者に適したスポーツ・文化活動等を通じて健康の保持・増進と参加者相互の交流を図り、生きがいと健康づくりを進めることにより、明るく活力あふれる長寿社会づくりの促進に寄与することを目的に「第1回沖縄ねんりんピック」と「第1回沖縄ねんりんピックかりゆし美術展」を開催した。

「沖縄ねんりんピック」では、奥武山総合運動公園を主会場に、県内各会場において15競技1680名の選手により熱戦が展開された。



▲マラソン競技における選手宣誓



▲審査風景

「沖縄ねんりんピックかりゆし美術展」では、6部門（日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真）で入賞作品35点を含む115点を県立博物館・美術館県民ギャラリーに展示し、4日間で1400名余りの来場者を得て盛況のうちに幕を閉じた。

上位入賞者（チーム）及び上位作品については、今年10月に石川県で開催される「全国健康福祉祭いしかわ大会」へ派遣・出展する。



6 利用者の立場に立った福祉基盤づくり

○地域福祉権利擁護事業

（日常生活自立支援事業）

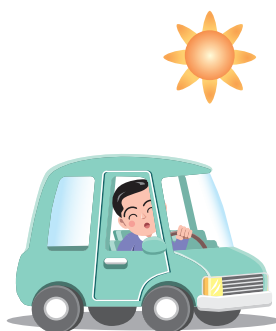
判断能力が不十分な方の福祉サービス利用援助や日常的な金銭管理、事業利用希望者が増加する中、適切な対応を図るため、基幹的社協に専門員3名（豊見城市・宮古島市・石垣市）を増員した。また各種研修会等を開催し、高齢者・障害者の権利擁護について理解促進に努めた。

○福祉サービスに関する苦情解決事業の推進

福祉サービスの利用者等から寄せられる苦情に迅速に対応するとともに、施設・事業所段階において、適切に苦情解決に取り組めるように事業者向け研修会の開催及び巡回指導を実施した。また、福祉サービス利用援助事業の適正な運営を監視するため、事業実施社協に対し実地調査を行った。

○高齢者虐待対応力向上事業

地区別に虐待事例個別相談会を実施し、高齢者虐待対応専門職チーム（弁護士・社会福祉士）で、市町村・地域包括支援センターにおける困難事例への助言及び支援を行った。



7 企画・情報機能の強化

○企画及び調査研究活動の強化

局内プロジェクト研究として、「県内の社会福祉施設・団体等の個人情報上の課題と適切な活用の調査研究」を行い、49施設・団体からのアンケート結果をまとめた報告書を作成した。

社会福祉ライブラリーでは、開架書架のスペースに限りがある中で、充実した書架づくりのため、蔵書の整理に取り組んだ。



▲報告書、アンケート調査票

8 県社協経営基盤の強化

○経営体制の充実強化

昨年度は、法人として初めて外部監査を実施し、平成20年度の会計処理について概ね適正に処理されているとの結果を得た。

○事務、事業の見直しと財源の効果的な運営

本会の財政の方向性と財源確保の具体策を検討するため、財政検討会を設置し、財政基盤強化計画を取りまとめた。

平成21年度 沖縄県社会福祉協議会決算報告

一 般 会 計 (単位：円)

貸借対照表				資金収支計算書				事業活動収支計算書			
借 方		貸 方		支 出		収 入		支 出		収 入	
流動資産	107,191,795	流動負債	72,493,664	経常支出	558,433,149	経常収入	561,835,043	事業活動支出	574,876,875	事業活動収入	561,708,375
固定資産	1,902,780,491	固定負債	210,249,246	施設整備等支出	1,080,450	施設整備等収入	0	事業活動外支出	21,298,350	事業活動外収入	47,960,972
		基本金	1,000,000	財務支出	13,267,419	財務収入	17,396,629	特別支出	660,450	特別収入	0
		基金	1,491,856,213	予備費	0			その他の積立金	2,174,000	前期繰越活動収支差額	30,925,529
		国庫補助金等特別積立金	1,033,479			前期末支払資金残高	40,951,477	積立額			
		その他の積立金	191,754,483	当期末支払資金残高	47,402,131			次期繰越活動収支差額	41,585,201	その他の積立金取崩額	0
		次期繰越活動収支差額	41,585,201					計	640,594,876	計	640,594,876
計	2,009,972,286	計	2,009,972,286	計	620,183,149	計	620,183,149				

収 益 事 業 特 別 会 計 (単位：円)

貸借対照表				資金収支計算書				事業活動収支計算書			
借 方		貸 方		支 出		収 入		支 出		収 入	
流動資産	33,115,460	流動負債	4,486,021	経常支出	128,522,785	経常収入	128,530,443	事業活動支出	129,600,115	事業活動収入	126,777,121
固定資産	172,197,369	固定負債	13,509,898	施設整備等支出	0	施設整備等収入	0	事業活動外支出	7,100,000	事業活動外収入	3,196,604
		基本金	0	財務支出	3,778,780	財務収入	792,000	特別支出	0	特別収入	0
		基金	0	予備費	0			その他の積立金	2,857,000	前期繰越活動収支差額	112,893,050
		元入金	40,765,033	当期末支払資金残高	29,599,439	前期末支払資金残高	32,578,561	積立額			
		その他の積立金	42,450,217					次期繰越活動収支差額	104,101,660	その他の積立金取崩額	792,000
		次期繰越活動収支差額	104,101,660					計	243,658,775	計	243,658,775
計	205,312,829	計	205,312,829	計	161,901,004	計	161,901,004				

※（社会福祉法人会計基準適用）

生活福祉資金特別会計 (単位：円)

貸借対照表				要保護世帯向け長期生活支援資金特別会計 (単位：円)				生活福祉資金貸付事務費特別会計 (単位：円)			
借 方		貸 方		借 方		貸 方		借 方		貸 方	
流動資産	3,236,433,446	流動負債	572,306,369	流動資産	184,273,716	流動負債	0	流動資産	6,219,936	流動負債	1,350,569
固定資産	2,840,877,562	固定負債	5,670,620,635	固定資産	15,736,000	固定負債	200,000,000	固定資産	14,223,506	固定負債	0
		基 金	2,435,749,915			基 金	15,736,000			基 金	14,223,506
		積立金	Δ 5,265,492,988			積立金	Δ 200,000,000			積立金	0
		繰越金	2,664,127,077			繰越金	184,273,716			繰越金	4,869,367
計	6,077,311,008	計	6,077,311,008	計	200,009,716	計	200,009,716	計	20,443,442	計	20,443,442

収 支 計 算 書				収 支 計 算 書				収 支 計 算 書			
借 方		貸 方		借 方		貸 方		借 方		貸 方	
事業費	369,637,417	補助金収入	1,054,960,000	事業費	9,774,000	補助金収入	0	事務費	50,030,387	補助金収入	39,698,000
積立金繰入支出	493,993,453	事業収入	385,662,315	積立金繰入支出	0	事業収入	0	事業費	18,821,775	繰入金収入	33,055,705
繰出金	32,295,649	積立金戻入収入	96,814,729	繰出金	200,749,711	会計間資金借入金収入	200,000,000	繰出金	1,869,600	雑収入	8,808
会計間資金貸付金支出	200,000,000	積立金利息収入	4,085	予備費	0	積立金戻入収入	0	予備費	0	繰越金収入	2,828,616
予備費	0	繰入金収入	200,000,000	当期繰越金	184,273,716	積立金利息収入	0	当期繰越金	4,869,367		
当期繰越金	3,236,096,884	雑収入	16,340,301			雑収入	759,427				
		繰越金収入	2,578,241,973			繰越金収入	194,038,000				
計	4,332,023,403	計	4,332,023,403	計	394,797,427	計	394,797,427	計	75,591,129	計	75,591,129

※（生活福祉資金会計準則適用）

臨時特例つなぎ資金特別会計 (単位：円)

貸借対照表				介護福祉士等修学資金特別会計資金収支計算書 (単位：円)				総括財産目録 (単位：円)			
借 方		貸 方		借 方		貸 方		I 資産の部		II 負債の部	
流動資産	15,390,519	流動負債	264,483	流動資産	219,064,013	流動負債	342,418	流動資産	3,800,402,350	流動負債	649,956,989
固定資産	22,156,770	固定負債	54,361,000	固定資産	30,260,000	固定負債	0	固定資産	4,998,231,698	固定負債	6,148,740,779
		基 金	22,156,770			基 金	0			Δ元入金	Δ 40,765,033
		積立金	Δ 54,361,000			積立金	0	資産合計	8,798,634,048	差引純資産	1,959,171,247
		繰越金	15,126,036			繰越金	248,981,595				
計	37,547,289	計	37,547,289	計	249,324,013	計	249,324,013				

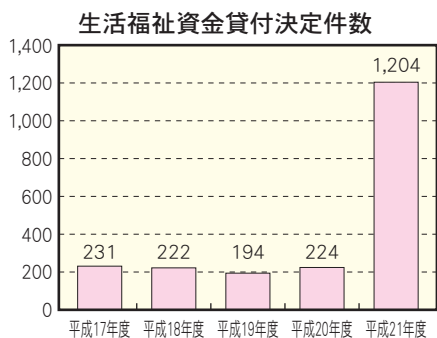
収 支 計 算 書				収 支 計 算 書			
借 方		貸 方		借 方		貸 方	
人件費	1,297,701	補助金収入	54,361,000	人件費支出	3,983,564	事業収入	0
事務費	281,249	事業収入	2,943,230	事務費支出	4,045,591	貸付事業等収入	0
事業費	26,100,000	繰入金収入	0	貸付事業等支出	29,700,000	受取利息配当金収入	50,750
負担金支出	14,500,000	雑収入	756	固定資産取得支出	560,000	会計単位間繰入金収入	0
繰出金	0	繰越金収入	0	当期繰越金	218,721,595	繰越金収入	256,960,000
当期繰越金	15,126,036						
計	57,304,986	計	57,304,986	計	257,010,750	計	257,010,750

※紙面の都合により、決算額（大区分）のみの掲載とさせていただきます。

なお、平成21年度財産目録、貸借対照表、資金収支計算書、事業活動収支計算書等詳細については、沖縄県社会福祉協議会ホームページにおいて閲覧することができます。

平成21年度の
貸付は前年度の5倍

平成21年度の生活福祉資金貸付事業は、294件の申し込みがあり、1,204件に貸付を決定した。その金額は4億7千万円であった。平成20年度は224件の貸付決定で、貸付金額は1億4千万円となっており、その伸びは、貸付件数は約5倍、貸付金額は約3倍となっている。雇用情勢の厳しさから、解雇



等による離職、さらに生活困窮に陥るケースは少なくない。平成21年度は、そういった情勢に対応する生活福祉資金の取り組みが行われた。

昨年の8月に貸付要件の緩和が行われたこと、そして、10月には制度の改正が行われ、『総合支援資金』が新たに創設されたことが大きい。また、授業料滞納による退学を防ぐために教育支援資金で、特例措置としての貸付を実施した。

総合支援資金に半年で329件の申請

『総合支援資金』は、失業等により日常生活全般に困難をかかえている方(世帯)を対象に、継続的な相談支援と生活費及び必要な資金の貸付を行うことにより、就職活動等への積極的な取り組みができるよう、自立にむけた支援を行うための資金である。

資金創設から半年の間に329件の申し込みがあり、297件が貸付決定を行い、貸付金額は、1億2千万円となっている。

平成22年度4月は、101件の申請に対し、すでに95件の決定を行い、3千万円の貸付を

行っている。

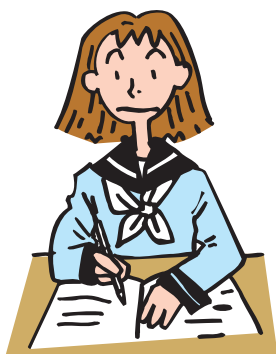
求職者の就職活動の支援の取り組みのひとつである行政の実施する住居手当が給付であるのに対し、総合支援資金は貸し付けである。この制度の借受者が就職につながらないと、将来の償還が危惧されることである。

高校生の授業料滞納を支援

雇用情勢の悪化による保護者の失業により、高校生の授業料滞納が増え、そのために卒業が認められない事態が見えてきた。

厚生労働省と文部科学省との連携の中で、生活福祉資金でこれまで対応していなかった授業料滞納世帯への貸付が、特例として実施される運びとなった。

全国では、1033件、2億5576万円の貸付決定を行った。沖縄県は、61件、441万1千円の貸付を行った。



民児協への支援

民生委員・児童委員の一斉改選に向けた対応

民生委員・児童委員は、地域住民の最も身近な相談役としての役割発揮が期待されており、その活動分野も高齢者や児童、障がい者、低所得者の支援等の福祉領域のみならず、生活支援の観点から教育や雇用等他領域の関係機関へ横断的に関わりながら支援活動を行っている。

今年12月1日には、3年に一度の一斉改選を迎える。本県では、過去3回連続して欠員が300人を超え、欠員地域では近隣委員の担当世帯が増える等、活動への負担感が指摘されており、民生委員・児童委員の「担い手」の確保が大きな課題となっている。

本会では、昨年度より、県民生委員児童委員協議会と連携して、「担い手」確保に向けた左記の取り組みを実施してきた。

- ① 県知事、各市町村長等に対する「担い手確保」に関する要請行動の展開
- ② 現任委員に対する継続意向確認調査の実施

③ 上記②の調査結果を受け、県福祉保健部長及び各市町村長への要望書提出

④ 県知事との懇談会の開催

⑤ 市町村民生委員事業担当者・市町村民児協担当者会議の開催

②の継続意向確認調査結果によれば、欠員も含め今回の改選で新たに約600名余りの「担い手」確保の必要性が浮き彫りにされた。この結果を受けて、市町村において新任委員の選任・委嘱手続きが迅速且つ円滑に実施できるよう、今年度、市町村行政担当職員との合同会議を開催した。本会からは、「担い手」確保及び推薦時における新任委員の説明内容の標準化等への市町村行政の主体的な関与、行政・社協・民児協・自治会等の関係機関・団体が連携した人材の発掘等について協力を求めた。



親子がイキイキ活動する

実りの里保育園
子育て支援センター
あしびな（名護市）

子育て支援センターの開設

昭和56年に認可保育園を開園した社会福祉法人白銀福祉会は、すべての家庭の親子を対象とした子育て支援センターあしびなを平成13年4月にスタートさせた。

センターの利用者は名護市を中心に近隣町村に住む親子だが、県外や本島中南部から転勤により移り住んできた、身内や友人が近くにいないという方も多いという。

やすらぎ、落ち着ける場所として

木の香りのする園舎では、大きなヌレエンが園舎と園庭をつなぎ、屋内に自然を感じられる造りとなっている。また、2名の保育士が利用者親子の表情や声のトーン、関わる姿や動きを観察し、見守り、



▲かあさん市で買い物を楽しむ親子

声をかけ、ポツリポツリ出てくる子育ての悩みや家庭の悩みを受け止めながら、ゆったりと関わっている。

かあさん市の誕生

このようなスタッフの支えにより、子どもは子ども同士、親は親同士、それぞれの関わり合いの中から刺激を受け、共に成長し、子育てを楽しめる余裕を生み出している。そして、モノ作りの好きなお母さんたちがつながり、母親たちの発表の場としての手作り市「かあさん市」が生まれた。

モノを通してヒトがつながる

母親らの自主企画である「かあさん市」は、これまでに4回行われ、第3回の来場者が延べ1000名となるなど回を重ねるごとに規模が拡大し、市を楽しみにする親子が増えているという。その背景には、手作りならではの作品の温かみや独自性が、スーパードコンビニなどで既製品に囲まれて育った親世代にとって、新鮮さを覚えるものであったり、作り手と買い手の直接のやり取りが人との関わりの面白さを気づかせる機会となっていることが挙げられるという。

「かあさん市」をサポートするセンターは、人と人、家庭と地域をつなぐ架け橋として、これからも子育て家庭はもとより、地域住民にも広く門戸を開いていくとのことである。

安心を支えます

ボランティア活動保険

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償

<http://www.fukushihoken.co.jp>



特長

- 活動場所と自宅との往復途上の事故も補償
- 熱中症(日射病・熱射病)による障害も補償
- ボランティア自身の食中毒や特定感染症も補償
- 地震など天災によるケガも補償(天災タイプご加入の場合)

ボランティア行事用保険

地域福祉活動の一環として行うボランティア活動に関する各種行事におけるケガや賠償責任を補償!

福祉サービス総合補償

ヘルパー・ケアマネージャーなどの活動中のケガや賠償責任を補償!

送迎サービス補償

送迎・移送サービス中の自動車事故などによるケガを補償!

年間保険料 Aプラン...280円 Bプラン...420円 天災タイプもあります

※各プランの補償金額、補償内容などの詳細は、専用のパンフレットをご用意しておりますので、取扱代理店にお問合せください。

お申込み、お問合せはあなたの地域の社会福祉協議会へ

社会福祉法人
団体契約者 全国社会福祉協議会

この保険は、全国社会福祉協議会が保険会社と一括して契約を行う団体契約です。

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763

〈引受幹事保険会社〉日本興亜損害保険株式会社

平成21年度 沖縄県共同募金会事業実績報告書

I 平成21年度(第58回)共同募金運動の実施

225,754,000円の目標額をかかげ、右肩下がりの実績額に歯止めをかけることを目標に展開した本年度の共同募金運動は、各支会・分会役職員を始め、共同募金ボランティアの献身的なご協力と多くの県民の理解はあったものの、取り組みが充分でなかったのか一般募金の達成率は全体で85.8%となり、実績額の対前年比減額に歯止めをかけることができず大変厳しい結果となった。

目標額達成支会・分会は、前年度と同じ18ヶ所で、町村で各1ヶ所減ったものの、昨年度は目標を達成したところがなかった市段階で2市支会が目標額を達成したのが特筆される。なお、募金実績額と達成率は次のとおりである。

1) 平成21年度(第58回)共同募金結果

①募金実績額

目標額：225,754,000円

実績額：193,821,122円(達成率85.8%)

②配分内訳()は達成率

市町村社協配分 113,530,808円(58.5%)

福祉施設団体配分 25,604,000円(13.2%)

災害等準備金 7,490,000円(3.9%)

支会分会交付金 12,000,000円(6.2%)

次年度運動積立金 16,000,000円(8.3%)

本部経理区分繰入 19,196,314円(9.9%)

2) 市町村別実績額・配分額(41件 113,530,808円 詳細略)

3) 広域福祉施設団体配分(14件 25,604,000円 詳細略)

4) 平成18年度災害等準備金による福祉施設団体配分(6件 7,524,000円 詳細略)

5) 平成22年度事業に要する民間福祉資金助成要望調査の実施

① 対象法人・施設・団体(未法人も含む) 776件

② 調査期間 平成21年4月14日～5月13日

③ 要望総額 261,161,345円

II 支会・分会の組織の強化と募金ボランティアの研修を兼ねた説明会の開催

1) 支会・分会運営委員会への参加(7件)

2) 共同募金運動説明会等の開催(13件)

3) 平成21年度市町村支会・分会募金担当職員等研究協議会の開催(平成21年8月5日(水)沖縄県総合福祉センター西棟4階会議室)

III 共同募金改革推進モデル事業の実施

1) 沖縄県における共同募金運動のあり方検討委員会の開催(4回)

IV 広報活動の実施

1) 共同募金運動(一般募金用)広報チラシの作成配布(42万3千枚)

2) 赤い羽根空の第一便伝達式の実施

(平成21年10月1日(木)パレットくもじ前広場)

3) 先島への赤い羽根空の第一便伝達式の実施

(平成21年10月1日(木)宮古空港ターミナル、石垣空港ターミナル)

4) テレビ・ラジオスポットによる広報活動

5) 街頭宣伝パレードの実施

(平成21年10月2日(金)平良マリナーミナル)

(多良間村を除く全宮古地区)

6) 第52回沖縄県社会福祉大会の開催

(平成21年10月29日(木)沖縄コンベンションセンター)

7) 平成20年度共同募金による福祉施設団体配分金内定通知書交付式の開催

(平成21年4月16日(木)沖縄県総合福祉センター東棟4階会議室)

V 功労者の顕彰

1) 中央共募会長感謝楯(法人・団体の部)(5件 10,735,137円)

2) 中央共募会長感謝楯(個人の部)(1件 600,000円)

3) 中央共募会長感謝状(法人・団体の部)(1件 617,572円)

4) 中央共募会長感謝状(個人の部)(8件 2,428,874円)

VI 大口寄付者の取り扱い

1) 県共募扱いの大口募金(8件 10,061,000円)

2) 支会・分会取り扱いの個人大口募金(7件 3,800,000円)

3) 支会・分会取り扱いの法人大口募金(3件 3,728,500円)

VII 平成21年度(第54回)歳末たすけあい運動の実施()は配分率

地域歳末目標額 64,813,000円

実績額 61,232,476円(94.5%)

県共募目標額 9,000,000円

実績額 6,586,149円(73.1%)

1) 地域歳末たすけあい(市町村支会・分会取り扱い)

義援金の受付(41件 90,900,886円)(繰越金含)

義援金の配分(211件 61,614,366円)

2) 歳末たすけあい(県共募取り扱い)

義援金の受付(314件 10,643,457円)(繰越金含)

義援金の配分(67件 06,446,000円)

3) 義援金交付式の開催(67施設団体 6,446,000円)

(平成21年12月25日(金)沖縄県総合福祉センター西棟4階会議室)

4) 歳末たすけあい物品受付

(4社 5品目 1,841,000円相当)

5) 歳末たすけあい物品配分

(135施設団体・中部地区10社協 550個/800個/65ケース/50箱)

6) 歳末たすけあい個人大口寄付(2件 2,300,000円)

7) 歳末たすけあい団体大口寄付(1件 2,005,500円)

VIII 災害たすけあい運動の展開

山口県7. 21大雨災害・福岡県7月豪雨災害・台風9号岡山県大雨災害・兵庫県台風9号災害

義援金送付先及び送金額(合計 3,171,196円)

1) 山口県共同募金会 1,000,000円

2) 福岡県共同募金会 1,000,000円

3) 岡山県共同募金会 500,000円

4) 兵庫県共同募金会 671,196円

IX 公益補助事業

1) 財団法人J K A補助事業

平成21年度J K A補助事業決定状況(5件 15,552,000円)

平成22年度J K A補助事業内定状況(7件 13,164,000円)

2) 平成21年度中央競馬馬主社会福祉財団助成事業決定状況

(3件 11,800,000円)

X 特定寄付金・指定寄付金

平成21年度特定・指定寄付金(0件)

XI 各種委員会及び交付式の開催

1) 共同募金に係る委員会(共同募金配分委員会 2回)

2) 財団法人J K A等の行う社会福祉事業に係る補助要望事業計画推薦委員会(3回)

3) 補助金・助成金等の内定通知書交付式(2回)

XII 県外関係会議・研修会への出席

1) 共同募金関係(3件)

2) 公益資金関係(1件)

3) 中央共同募金会評議員会(1件)

XIII 支会・分会(市町村社協)関係団体等の実施する会議等への参加(15件)

XIV 会務の運営

1) 理事会の開催(3回)

2) 監事の監査(1回)

3) 評議員会の開催(3回)

平成21年度 沖縄県共同募金会決算報告

1. 一般会計

(単位：千円)

(単位：千円)

貸借対照表			
借方		貸方	
流動資産	223,073	流動負債	169,946
固定資産	88,386	固定負債	17,571
		基本金	3,000
		その他の積立金	62,460
		次期繰越活動収支差額	58,482
計	311,459	計	311,459

資金収支計算書			
支出		収入	
経常支出	322,081	経常収入	322,787
施設整備等支出	0	施設整備等収入	0
財務活動支出	921	財務活動収入	0
予備費	0	前期未支払資金残高	83,614
当期末支払資金残高	83,399		
計	406,401	計	406,401

(単位：千円)

(単位：千円)

事業活動収支計算書			
支出		収入	
事業活動支出	264,316	事業活動収入	273,845
事業活動外支出	66,686	事業活動外収入	56,512
特別支出	0	特別収入	0
その他の積立金積立額	1	その他の積立金取崩額	0
次期繰越活動収支差額	58,482	前期繰越活動収支差額	59,128
計	389,485	計	389,485

財産目録			
借方		貸方	
流動資産	239,073	流動負債	169,949
固定資産	88,386	固定負債	17,571
		負債合計	187,520
資産合計	327,459	計	139,939

※社会福祉法人会計基準に基づく

地域福祉活動支援のお知らせ

平成23年度事業 公募助成のご案内

- ▼募集対象：地域で福祉活動を実施している住民団体やボランティアグループの資金助成。
住民主体の諸活動であり、自主性・非営利・公開を原則とする。
- ▼助成限度額：1団体、1件30万円
- ▼募集期間：平成22年7月1日（木）～10月29日（金）午後5時必着（土・日・祝日は除く）
- ▼募集方法：所定の応募用紙に必要事項等を記入の上、鏡文書を付けて沖縄県共同募金会へ提出（郵送可）
- ▼問合せ先：沖縄県共同募金会事務局 電話 098-882-4353
HPでも紹介（様式添付）
沖縄県共同募金会HP
<http://www.okishakyo.or.jp/html/kyoubo/>



© 中央共同募金会

平成22年度
県社連総会の開催

市町村社会福祉協議会 会長・事務局長等 研究協議会

―災害時における社協の対応、
高齢者や障害のある
受刑者の実態について―



▲基調報告を行う嘉陽地域福祉部長

平成22年度沖縄県市町村社会福祉協議会連絡協議会(以下「県社連」)総会並びに市町村社会福祉協議会会長・事務局長等研究協議会(主催/沖縄県社協・県

社連)が去る6月2日(水)、沖縄県総合福祉センターで開催された。県内各市町村社協から、会長、事務局長等計75名が参加した。

県社連総会では、平成21年度事業報告・収支決算報告、監事の補充選任が行われた。(読谷村社協の長浜真賢事務局長を選任)。

総会後の研究協議会では、沖縄県社協の嘉陽地域福祉部長から、平成22年度県社協地域福祉部の重点事業について基調報告がなされた。

国で進められている「新しい公共」の議論や、地域包括ケア報告等最近の国の情勢動向を踏まえ、市町村社協巡回訪問の強化やコミュニケーションソーシャルワーク研究活動、市町村社協ボランティアセンターの強化や災害時の対応等、今年度事業の取り組みについて説明があった。

引き続き、県社協総務部・地域福祉部から「沖縄県社協・災害救援本部マニュアル」の中で、災害対策に社協が取り組む理由や、県社協災害救援本部の設置と解散までの流れ、市町村災害ボランティアセンターへの支援策等について説明が行われた。



▲沖縄タイムス社の吉川記者

最後に、「『塀』のはざま」と題して、沖縄タイムス社・社会部記者の吉川毅氏を講師として講話が行われた。吉川氏は、高齢者や障がいのある受刑者の実態について記事を連載しており、今回はその取材を通して見えた実態・課題について話をされた。

吉川氏は、高齢者や障がいの受刑者は、家族と縁が切れ、出所時には身許引受人も現れず、帰る場所も無く、所持金も少ない、そのため刑務所への入・退所を繰り返している人達が多いという現実を指摘した。

さらに、退所後に必要な福祉サービスに繋げるための地域生活定着支援センター事業や、県外の先進的な取り組み事例等を報告し、地域での受け入れ態勢の整備の必要性を訴えた。最後に「刑務所と福祉のはざまに

る弱者のことを、私たち一人ひとりがこの現実について受け止める必要がある」と講話を締め括った。



▲真剣な表情の各市町村社協会会長・事務局長

～あなたの街のホットな 情報をお寄せください～

福祉施設や市町村社協、民生委員・児童委員からの情報はもちろん、広報紙の読者からの情報提供もお待ちしています。どうぞ、お気軽にご連絡ください。

(県社協総務企画部まで)

Hot Information

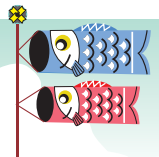


配信登録や投稿方法については、この度、リニューアルしたボラセンのホームページ「ボランティアねっと」
<http://volunchu.net/>
よりご確認ください。

県内NPO活動やボランティア募集の情報が集まった
メールマガジンを配信中心!

沖縄県総合福祉センターこいのぼり掲揚式

～地球はね 笑顔がつまった 星なんだ～



▲主催者としてあいさつする比嘉常務



▲一列に並んでこいのぼりを掲げる

平成22年4月26日（月）県総合福祉センター結プラザにおいて、こいのぼり掲揚式が行われた。主催者の比嘉成和県社協常務理事より「地域の子どもたち、そして沖縄の子どもたちが、こいのぼりのように健やかに元気で伸び伸びと育つよう、みんなで育てていきましょう」と挨拶があった。その後、近隣の保育園児らによるお遊戯が披露され、会場に笑顔が溢れた。また、センターの所在する石嶺地区を担当する首里第3民児協の小笠原文子会長より民生委員・児童委員の役割や活動などが紹介された。

今年で8回目となる今回は、子どもたちの作品の展示も行い、個性溢れる作品が会場を彩った。



▲元気いっぱい踊る子どもたち



▲首里第3民児協の小笠原会長



▲みどり保育園の園児たち



▲みぎわ保育園の園児たち



▲太陽保育園の園児たち

地元ボランティアとして十数年間協力を続けている SOLA 沖縄学園では、専門性を活かし、地元に貢献できる社会人の養成を目指すという方針のもと、サービス介

入者、参加者は、福岡県内の作業所等の仲間と交流を図るほか、沖縄県の障害児者をはじめ、専門学校 SOLA 沖縄学園の学生らによるボランティアとの出会いと交流でふれあうとともに、青い海での海水浴やドルフィンプログラムへの参加、沖縄の名所・旧跡の見学など様々な初めての体験にチャレンジする。

この事業は、日頃、旅行の機会が得られない在宅の障害児・者に沖縄の「空の旅」を体験してもらいたいと取組まれており、これまでに延べ2,950名の障害児・者及び家族の方々が参加している。

社会福祉法人福岡県社会福祉協議会では、1981年に国連で国際障害者年が設けられたことを契機に「福岡県ふれあいとチャレンジの翼」事業を開始。

助士検定を目指す学生を中心に今回も約30名程度がボランティアを行った。

担当の大城真一先生は、「学生の中には自ら進んで行動する生徒もいるが、経験の無い中で苦意識を持つ生徒もいる。そういう生徒を参加につなげるまでの動機づけをサポートしているが、実際にハンディがある彼らと関わっていくうちに、やって良かったと思う生徒もおり、お互いにチャレンジの場となっていますよ」と話してくれた。



▲海水浴をボランティアと共に楽しむ

第30回 福岡県ふれあいとチャレンジの翼
92名の障害児・者と家族・スタッフが沖縄へ

スウェーデン発 認知症緩和ケア タクティールケアの実践

〈特養 谷茶の丘・雅〉

タクティールケアとは

平成20年度にタクティールケアの初級研修として「認知症緩和ケア実践研修会」(主催/県社協・老サ協)が行われた。この研修を受けた後、施設利用者への実践を行い、㈱日本スウェーデン福祉研究所のタクティールケアIコース認定資格を取得した特別養護老人ホーム谷茶の丘・雅の職員比嘉美香さんに、タクティールケアの効果について話を伺った。

スウェーデンにおいて40数年前に未熟児のケアとして生まれ、障害児、がん患者への緩和ケア、認知症患者へと発展してきたタッチングケアである。

ケアの基本は、利用者が落ち着ける静かな環境の中で、体の手や足などの一部位を1回10分間、圧をかけずに優しく包み込むように肌に触れ、手順どおりに施術する。施術者は一度触れたら、終了まで離れずに行う。指圧やアロマテラピー等とは異なり、施術者からみて右回りに同じ圧力で触れ、ゆっくりと肌のぬくもりを伝えながら皮膚の接触受容体を刺激し、脳下垂体からのオキシトシンホルモンの分泌を促し、効果を得るものである。

Nさんへの実践

平成18年10月に谷茶の丘・雅



▲利用者の居室で静かな環境の中ケアを行う



▲圧をかけずにゆっくりと足を包み込むように

に入所されたNさん(94歳、女性)は介護度3、認知症Ⅱbの判定を受けており、昼夜問わず排泄の訴えや不眠、徘徊があり、いつも落ち着かない状態であった。Nさんに対しタクティールケアを始めた当初は、施術開始から3分もするとNさんが動き出し、ケアを中断せざるを得ない状況で、7、8回目によつと10分間のケアを施せるようになった。Nさんに変化が現れ、ケアの効果を実感できるようになったのは、スタートしてから約半年たった10回目の施術あたりからだったという。

県社会福祉予算対策協議会

『寄附に対する税制上の優遇措置 紹介パンフ』を発行

沖縄県社会福祉予算対策協議会(新垣雄久会長)は、社会福祉法人等への寄附に対する税制上の優遇措置を紹介するパンフレットを製作・発行しました。(左下・写真)

平成20年の地方税法の一部改正により、個人住民税の寄附金税額控除の対象範囲が拡大し、都道府県または市町村が条例により指定した団体等への寄附金が控除対象に含まれることとなりました。

これを受け昨年9月、県社会福祉予算対策協議会では、県知事への「平成22年度県予算に対する要望書」において、社会福祉法人への寄附金を個人県民税の控除対象とすることを要望しました。

その後、11月の県議会において条例の一部改正が行われ、沖縄県内に事務所または事業所を有する社会福祉法人等へ行った寄附金が控除対象として指定されました。



▲パンフレットには、控除申請に必要な「寄附金受領証明書」も添付している。

社会福祉施設を運営する法人や社会福祉協議会に対する個人からの寄附金はこれまでも多く寄せられていますが、税制上の優遇措置が加わったことで、さらなる増加が期待されます。パンフレットは、寄附者が行う申請手続きについて、寄附を受ける法人等の担当者が説明しやすいように工夫されています。県予算対策協議会では、会員の法人に対し、このパンフレットを無料配布するほか、ホームページでも公開する予定です。

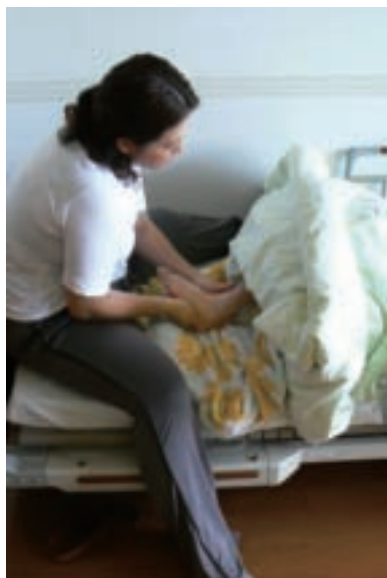
Nさんに現れた効果

一人でいられない、奇声をあげるなど、常に不穏な様子であったNさんだったが、お通じ

が良くなった、しっかりと睡眠が取れるようになると共に、リラクセスしてケアを受けるようになってきた。また、施術者の比嘉さんの存在を認め、ご自身の状況を理解できるようになり、精神的にも落ち着きをみせてきた。さらに、その日の体調の不調などを職員へ訴えられるようになるなど、コミュニケーションがとれるようになってきた。

タクティール特有の効果

「タクティールケアを施しながら、10分間1人の利用者としてじっくり向き合うことで、より一層その方への理解が深まった」と話す比嘉さん。そこには、利用者の側に居て、コミュニ



▲利用者の表情なども確認しながら

ケーションを図る介護職員としての支援効果に加え、肌と肌の触れ合いを通して得られるタクティールケア特有の効果が伺える。

タクティールケアによって分泌されるオキシトシンホルモンは、母親が子どもに授乳している時に多く分泌され、「愛情ホルモン」とも呼ばれ、分泌されたホルモンが血管内に放出されると、体全体に効果を生み、沈静化の作用を起こす。それにより、安心と信頼の感情が引き起こされ、良い気分になり、不安感や恐怖感の緩和が図られるとされている。

実践の継続に向けて

介護現場におけるケアの効果は、直ぐに現れるものではない。

比嘉さんは、「これまでにも

バリデーションなど様々なケアを学び実践を試みてきたが、全室個室の当施設は一对一の静かな環境を作りやすく、また、1回10分の時間設定は、ユニットケアを実践するスタッフ体制にあっても、継続的な実践が可能だった」とみている。

そして、ケアを施す比嘉さん以外のスタッフの理解と協力のもと、実践を根気よく続けていく体制の構築が重要であるといえる。

●お問い合わせ先

特別養護老人ホーム

谷茶の丘・雅

恩納村字谷茶1919-7
電話 098-966-2323



社会福祉ライブラリー

貸出し対象 拡大雑誌等の貸出しも可能

沖縄県総合福祉センター2階にある社会福祉ライブラリーでは、今年6月より、貸出し書籍の対象を拡げました。これにより、全国社会福祉協議会などが発行する月刊誌（季刊誌）等の雑誌を借りることが可能となりました。（ただし、最新号は除きます）

ライブラリーのホームページでは、蔵書検索システムにより、書籍の貸出し状況が把握できます。気になる書籍や雑誌がある方は、システムで検索し、貸出し可能か確認した上でライブラリーを利用されると、効率よく利用できます。

開館時間

月曜日～金曜日

午前9時～午後5時

※ただし、毎月第一火曜日は書籍等整理により閉館。

<http://www.okishakyoo.or.jp/html/library/>

貸出し可能になった雑誌の一部を紹介します



▲貸出し可能となった雑誌

- 全国社会福祉協議会出版
- 月刊福祉
- 保育の友
- 生活と福祉
- 大阪ボランティア協会
- vol.10 (ウォロ)
- 特定非営利活動法人CLC
- Juntos (フントス)
- 時事通信社
- 厚生福祉
- 住民福祉総合研究所
- 月刊 住民福祉
- 独立行政法人国際協力機構
- JICA's World
- クロスロード

「福祉・介護の職場体験」

福祉のお仕事の魅力を体験しませんか？

県福祉人材研修センターでは、昨年引き続き、福祉人材の確保・定着を目的に、「福祉・介護の職場体験」を実施します。

「福祉のお仕事ってどんな事

をしているの？」「福祉のお仕事に興味はあるけど、実際どんな事をしているのかわからない」という方、この「職場体験」を通して、福祉のお仕事の魅力

を体験してみませんか？

体験施設は、老人（特別養護老人ホーム）・障害者（知的障害者更正施設・保育（保育園）の3種別です。また、地区ごと

（那覇・南部・中部・北部・宮古・八重山）に指定施設を用意していますので、興味のある分野で、かつ、お住まいに近い施設の職場体験が可能です。

申し込みの対象者は、「福祉・介護分野へ関心を有する一般県民」です。ただし、大学や福祉系専門学校で実習等の機会がある方は、お申込んだり

募集受付期間は7月1日（木）

から7月31日（土）の1ヶ月間です。定員に達し次第締切りしますので、御希望される方は早めにお申込ください。

募集要項及び体験申込書は本センターにて御用意しております。電話やFAXにて直接本センターへ御請求ください。

具体的な体験実施の日程は、9月から10月の期間において体験施設が指定する日時（連続する2日間）に実施します。お申込の際に、指定日の中から御希望の日程をお選びください。

なお、体験費用は無料です。ただし、体験期間中の食費や交通費等は別途体験者の負担となります。

【問い合わせ先】

沖縄県福祉人材研修センター
電話 098-882-5703
FAX 098-887-2068

平成22年度

ソウエルクラブおきなわ 会員交流事業実施

福利厚生センターおきなわ事務局では、地域の会員が年間を通じて利用できるような会員交流事業を企画しました。

今年度は新しく、ボウリング大会と広報講習会を取り入れ、

より多くの会員に利用しやすいサービ

スを提供してソウエルクラブおきなわを盛り上げていきたいと考えています。

地域の会員が利用できる会員交流事業は以下のとおりです。

- ① デイズニールゾートの旅
- ② マッスルミュージカル2010 JAPANツアー



③ 劇団四季 ファミリーミュージカル（離島・先島地区限定事業）

④ ボウリング大会

⑤ 佐渡裕 シエナ・ウインド・オーケストラ

⑥ バスケット観戦チケット（琉球ゴールデンキングス）

⑦ 沖縄プロレス観戦チケット

⑧ 図書カード（離島・先島地区限定）

⑨ 映画鑑賞券

⑩ 広報講習会

⑪ パソコン講習会

⑫ 入学祝金贈呈（離島・先島地区限定）

この他に、全国共通で利用できるサービスもあります。例えば、各事業所あるいは法人ごとに毎年行われる生活習慣病予防検診に対して一部助成したり、会員のリフレッシュや余暇活用のために宿泊施設やテーマパーク、スポーツクラブなどと提携したり、と会員にとってより利用しやすいサービスメニューを

準備しています。

現在、未加入の法人でも、年間を通してソウエルクラブへの加入を受付けていますので、是非ご加入ください。ソウエルクラブへ加入することで、個々の法人では成し得ない福利厚生事業を全国規模で共有化することができるようになり、この規模のメリットを活かし、会員のニーズに応じた多種多様なサービ

スを提供できるようにあります。現在では会員が全国20万人を超えサービスメニューも増加しています。

【問い合わせ先】

福利厚生センターおきなわ事務局担当
電話 098-882-5703



▲ソウエルクラブは、福利厚生センターの愛称です。



沖縄県福祉人材研修センター 「求職登録」のご案内

福祉の仕事をお探しの方や、福祉の仕事にご関心のある方

沖縄県福祉人材研修センターの「求職登録」はご存知ですか？



登録すると

- 毎月、福祉の求人情報をご自宅へ送付いたします。
- 職場面接会や福祉関係のイベント・セミナー等の情報を提供しています。
- 「マッチングシステム」を使った求人紹介を受けることができます。

福祉分野の就職活動を
応援します!!

求職登録の方法

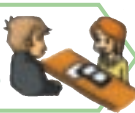
福祉人材センターへ
来所する



「求職票」に
記入をする



相談員へ
提出する



登録完了
(所要時間は10分程度)



その他、福祉人材センターでは・・・

- 公開求人の閲覧・紹介
- 福祉の仕事や資格についてのご相談
- 施設・事業所の資料や資格情報の閲覧ができます！

詳しくはお電話にてお問合せください！

－お問合せ先－

沖縄県福祉人材研修センター
那覇市首里石嶺町4-373-1 東棟3階
TEL 098-882-5703

好評開催中！ あなたも介護講座を受講しませんか？

お知らせ

介護実習普及センターも今年度で8年目を迎え、新たに福祉・介護マッチング支援事業と連携し、出前研修を行っています。

出前研修は、実技をメインとした研修で腰痛予防体操を初め、お互いで一つ一つ技術確認をしながら研修を進めています。



お申込み・お問い合わせ

沖縄県介護実習・普及センター
・電話 098-882-1484
・FAX 098-882-1486

介護従事者対象

介護講座 第1回 SKILL UP

- ① 6 / 18(金) 午前
「高齢者疑似体験」
- ② 6 / 18(金) 午後
「立ち上がりの自立と介助」
- ③ 6 / 25(金) 午前
「起居の自立と介助」
- ④ 6 / 25(金) 午後「食事編」
- ⑤ 7 / 2 (金) 午前「着脱編」
- ⑥ 7 / 2 (金) 午後「入浴編」
- ⑦ 7 / 9 (金) 午前「排泄編」
- ⑧ 7 / 9 (金) 午後「住宅改修編」

※SKILL UP1の申込みは、終了致しましたが、第2回SKILL UPを11月19日(金)よりスタート致します。
申込み受付開始日は、10月19日(火)となっております。

一般県民対象

介護講座 はじめようシリーズ2

- ① 8 / 4 (水)「福祉用具編」
 - ② 8 / 11(水)「着脱編」
 - ③ 8 / 18(水)「入浴編」
 - ④ 8 / 25(水)「食事編」
 - ⑤ 9 / 1 (水)「住宅改修編」
- ・定員 16名(申込み順)
 - ・時間 13時30分～16時30分
 - ・会場 沖縄県総合福祉センター
 - ・料金 200円/1講座(全5回)
(当日現金払い)
 - ・受付 7月5日(月)より
(申込み方法は、お問合せください)



沖縄県障害者施設研究大会 発達障害を理解する

「発達3兄弟の謎」

平成17年4月、発達障害者支援法が施行された。施設においても自閉症やアスペルガー障害などの発達障害を抱える利用者が増え、必要とされるサービスの内容が益々多様化し、より専門的な対応が求められている。本研修会では、発達障害の正しい理解と、特性を踏まえた援助方法を学び、利用者の持つ可能性や個性を引き出す支援のあり方について考えることを目的に開催する。

【主催】

沖縄県社会福祉協議会
心身障害児者施設協議会
沖縄県知的障害者福祉協会

【日時】

平成22年8月28日（土）
13時30分～16時

【会場】

豊見城市立中央公民館 中ホール
【参加費】 一人 3千円

平成22年度介護支援専門員 実務研修受講試験申込（ご案内）

● 申込書類配布及び申込期間

6月14日（月）～7月16日（金）
※消印有効

● 受付・問合せ時間

月～金曜日 9時～17時（祝祭日・土日を除く）

● 申込書類

当会で「受験の手引き」（1部500円）をご購入後、申込書類等を当会へ郵送（簡易書留）
※申込書は窓口提出不可。また、郵送で申込書類をお取り寄せできますので当会へご連絡ください。

試験日／平成22年10月24日（日）

問合せ先／（福）沖縄県社会福祉協議会
福祉人材研修センター

TEL：882-5703（直通）

【内容】 講義Ⅰ及び講義Ⅱ
「発達3兄弟の謎」

「君は天才・秀才・冒険家!?」
講師／釘宮誠司氏

医療法人謙誠会博愛病院院長・
小児精神科医

※定員は200名となっております。施設職員を対象とした研修となっております。参加等に関するお問合せは、左記までご連絡ください。

県社協・施設団体福祉部
（外間、新垣）

寄付・寄贈者芳名

（5月29日～6月29日まで）

● 株式会社大川 様

● 円応教円応青年会 様

● いけばなインターナショナル

沖縄支部 様

● 沖縄明治乳業株式会社 様

御寄付ありがとうございます。
社会福祉推進のために大切に活用させていただきます。

ありがとうございました



表紙の写真

作品名

「壺屋の匠」



撮影者
福盛庸夫さん（那覇市在）

この作品は、今年1月にやちむん（焼物）の街である那覇市壺屋にて撮影したものです。

撮影者の福盛さんは、お孫さんの成長の記録を撮りたいと、かりゆし長寿大学の写真クラスを選択されました。学べば学ぶほどに、被写体の選択や構図、光のバランスなど写真撮影の難しさや奥深さに気づかされると話され、大学卒業後も一眼レフを片手に、すすく育つお孫さんたちの写真を中心に写真を撮り続けています。

編集後記

沖縄の梅雨明けは、平成22年6月23日の「慰霊の日」です。いよいよ夏本番、今年は全国高校総体「美（ちゅ）ら島沖縄総体2010」が開催されます。ワールドカップ南アフリカ大会でのサッカーに続き、今年は、スポーツ観戦で盛り上がる夏になりそうです。